

会議・協議等記録簿

環境政策課 環境保全係

議 題	第 2 回佐久市生物多様性専門家会議		
日 時	令和 6 年 9 月 1 8 日 (水) 14:00~16:00	場 所	佐久市協和コトメキ地区周辺
出席者	委 員：出席 5 名、欠席 2 名 事 務 局：環境政策課長、環境保全係長、環境保全係、危機管理係、 コーディネーター		
会 議 ・ 協 議 等 事 項			
1 開会			
2 会議事項			
(1) 今年度調査地の現地視察			
ア 調査地 1 について			
・ 光環境が良い地点の植生回復柵の外側の調査区 (P 1 - 2) では、先月までシダ植物が繁茂していたが、シカの被食圧がかかったのか、シダ植物が減少している			
イ 調査地 3 について			
・ 光環境が良くない地点の植生回復柵の内外 (P 3 - 1、P 3 - 2) で、植物の成長が見られず、このままでは植生回復が難しいと思われる場所がある			
ウ 調査地 6 について			
・ 調査地全てにおいて、植生回復柵を残しておくことは可能か ⇒協和財産区には、今年度中は植生回復柵を残しておくことは許可を得ているので、来年度以降の植生回復柵の設置については協議が必要である			
エ 望月高原牧場でのライトセンサスについて			
・ ニホンジカに牧草を食われているので、牧場の周りに柵を設置することはしないのか ⇒J A の管理であり、今のところ予定はない			
・ 伊豆半島の事例として、牧場の周りの柵をシカに破られてしまったが、深夜に穴を塞いで、牧場内に入ったニホンジカを捕獲している			
・ 牧場の周りに柵を設置し囲ってしまうと、ニホンジカが牧場とは別の場所へ移動し、他の場所で悪さをする可能性があるため、今の状態で上手く共存していると思われる			
・ 去年は去年、今年は今年で結果を比べてみて、分かったことを客観的にまとめるようにする			
(2) 佐久市環境政策課から調査実験の中間報告について			
ア 植生回復柵調査について			

会議・協議等記録簿

環境政策課 環境保全係

- ・ 植被度、草丈とも5月設置時から8月にかけて概ね増加している
 - ・ 植生回復柵の内外で草丈に差が見られないことから、ニホンジカによる食害は顕著ではなかったと考えられる
 - ・ 光環境については、カラマツ植林では5月から8月にかけて大きな変化はないが、調査地2、調査地6では一部の落葉広葉樹の開葉が遅く5月の方が明るい
- イ センサーカメラ調査について
- ・ 18台を設置し、稼働日数90日前後で、4,273回撮影された
 - ・ 動物種が撮影された回数は3,597回であり、撮影率は84%であった
 - ・ 撮影回数が多かった地点は、牧場脇、調査地3であった
 - ・ 撮影された動物のうち、撮影回数が多かったのは、ニホンジカ(2,378回)、ニホンザル(334回)、テン(207回)の順であった
- ウ ライトセンサスについて
- ・ これまでに5月、6月、7月、8月と月1回、合計4回実施した
 - ・ 牧場内で確認されたニホンジカの合計頭数、266～421頭である
 - ・ 5月に最大値を示し、6月以降は減少した
 - ・ 5月は全体的に個体数が多く、牧場周辺の植生回復柵付近などでも目撃している
 - ・ 5月は軟らかい新芽を求めて牧場付近に集まってきたものと考えられる
 - ・ また、5月は垂成獣(雄1尖角を含む)が多く、特にライトを向けると逃げるような神経質な個体が多かった
 - ・ 6月以降は雄成獣が増加し、7月以降は雄のうち4尖角のものが約8割以上を占めた
 - ・ 幼獣(当歳)は6月以降に目撃され、7月以降に多く、8月には雌成獣3～4頭に1頭程度が幼獣を連れていた
 - ・ 群れサイズは、5月には数十頭規模の比較的大きな群れが複数目撃されていたが、7月以降には100頭以上の大きな群れができ、特に牧場の南側に多くの個体が集まっていた
 - ・ なお、令和5年度と同様の調査地点の結果のみで集計すると合計頭数は187～338頭であり、令和5年度と比較して今年度は7月～8月において40～90頭前後少なくなっている
 - ・ 調査地1と調査地5を移動する群れと、調査地3と牧場脇を移動する群れの2パターンがあると推測される

(3) 防災科学技術研究所から今年度の調査説明について

ア 佐久市との連携事業について

- ・ タイムラプスカメラや雨量計、水センサーを設置しているため、月1回程度データの回収に来ている

会議・協議等記録簿

環境政策課 環境保全係

(4) その他

3 閉会